

令和8年3月定例会の概要

令和8年3月定例会は、2月19日から3月19日まで開催されました。今回の特集号では、今定例会で可決した令和8年度当初予算の概要と主な内容のほか、会派代表質問（久野三男議員）及び市政一般質問（大河原裕勝議員、薄井長広議員、伊藤典夫議員、塩田義智議員）の内容についてご報告いたします。

令和8年度当初予算の概要

令和8年度当初予算は、「若者の地元定着」、「魅力発信」、「郡山駅西口ロータリー整備」など6つの重点分野に注力し、将来都市像「東北の鼓動 未来を奏でる 選ばれるまち 郡山」の実現を目指す、市民とともにまちを動かす予算となっています。

Table with 2 columns: Budget Category (General, Special, Total) and Comparison with Previous Year (Increase/Decrease %).



志翔会では、本定例会の期間中、若者の投票率向上を目的とするNPO法人ドットジェイピーのインターンの学生の受け入れを実施しました。本会議や常任委員会の傍聴や議員の日頃の活動の同行などを通じて、地方自治や地方議会について理解を深めたことと思います。

代表質問 要旨

志翔会会長 久野 三男



郡山駅東西の接続可能で回遊性の高い魅力あるまちづくりについて

郡山駅を中心とした東西の機能バランスに配慮し、接続可能で回遊性の高い魅力あるまちづくりを立体的かつ広域的に検討すべきと考えるが、見解は。

令和5年11月に改訂した「郡山市都市計画マスタープラン」において、都市づくりの基本方針に東西の均衡のある発展を位置づけ、「広域交流軸」を重視した、将来都市構造を目指すものとしている。交通施設については、本マスタープランの整備方針に基づく道路計画により、国道288号富久山バイパスや内環状線など、郡山駅東西へのアクセスや回遊性に配慮した道路の整備を進めている。郡山駅周辺においては、ウォークラブルな街並み形成やペDESTリアンデッキの整備を

進め、立体的な歩行者動線の確保により、回遊性と滞在快適性の向上を図っている。



郡山駅 東西ともに選ばれるまちづくり

学びと絆寄附金の制度の展開について

昨年11月には、ふるさと納税を活用した大学応援の制度「郡山市学びと絆寄附金」が創設された。当該制度のねらいや現在2校となっている寄附対象の拡大など、今後この制度をどのように展開していく考えなのか。

本制度は、大学の安定的な教育研究活動の支援、教育環境の充実、そして官学連携による地域課題の解決を目的とし、ふるさと

と納税の活用により、寄附者が指定する大学の地域貢献活動に対し、寄附金の7割を上限に補助金を交付するものであり、昨年11月、県内初の取り組みとして寄附受付を開始したところである。これまで、日本大学工学部及び郡山女子大学・同短期大学部を対象に事業を進めていたが、この度、奥羽大学にも趣旨に賛同いただき、2月20日付で寄附対象校として登録した。今後、寄附対象の拡大の検討などを進め、地元大学との連携を一層強化し、地域課題の解決及び大学の教育環境のさらなる充実を図る。



寄附対象先の1つである日本大学工学部・大学院

議員紹介

- 氏名、期数/地区、連絡先、会派役職、市議会役職

Profile of 西田 豊 (1st term, Maebashi-ku) with photo and contact info.

Profile of 大河原 裕勝 (1st term, Maebashi-ku) with photo and contact info.

Profile of 薄井 長広 (1st term, Maebashi-ku) with photo and contact info.

Profile of 伊藤 典夫 (1st term, Maebashi-ku) with photo and contact info.

Profile of 加藤 漢太 (1st term, Maebashi-ku) with photo and contact info.

Profile of 森合 秀行 (3rd term, Maebashi-ku) with photo and contact info.

Profile of 塩田 義智 (5th term, Maebashi-ku) with photo and contact info.

Profile of 近内 利男 (5th term, Maebashi-ku) with photo and contact info.

Profile of 久野 三男 (5th term, Maebashi-ku) with photo and contact info.

Profile of 佐藤 政喜 (5th term, Maebashi-ku) with photo and contact info.

Profile of 大城 宏之 (6th term, Maebashi-ku) with photo and contact info.

3月定例会市政一般質問

要旨

踏切内での対面通行について

問 市道空田堂城前線の磐越西線第二越後踏切について交互通行により、朝の通勤時に交通渋滞が発生している。町全体の要望だが、何十年も変わっていない。渋滞の緩和を図るため、対面交通ができるように踏切の、幅員を広げてはどうか。

大河原裕勝



答 「踏切道は、立体交差化や統廃合により、除却に努めるべきもの」と国の基本的な考えが示されているが、周辺における大規模な宅地分譲の整備や西部工業団地への通勤により、当該踏切の交通量の増加が見込まれることから、JR東日本と拡幅の可能性などについて協議していく。



市道・空田堂城前線の踏切近く

道路除雪機械リース料などの固定的経費の拡充について

問 道路除雪で燃料費の高騰、人件費の上昇に加え、最も大きな負担となっているの

が、「除雪機械のリース料」「作業員の待機コスト」である。担い手確保のため出動した場合における機械リース料などの固定的経費の拡充への見解は。

答 令和4年度から、市が直接、除雪用グレーダ1台をリース契約して事業者へ貸し出す取り組みを始め、今年度は3台に拡充し事業者の固定費負担の低減に努めている。固定的経費の計上については現在、国が進めている「少雪時における道路除雪工の固定的経費の積算方法」の検証結果を踏まえ、事業者の意見も伺い検討していく。



除雪機械

「駅前滞在型観光戦略」について

問 開業25周年を契機とする「世界一高い場所にあるプラネタリウム」を活かす駅前滞在型観光戦略への見解は。

薄井 長広



答 スペースパークは平成13年の開館以来、これまでの入場者数は800万人を超え、宇宙劇場は地上高104.25メートルの「地上から世界で一番高いところにあるプラネタリウム」として平成14年1月にギネス認定を受け、これまで認定証をビックアイ23階宇宙劇場入口等に掲示するなど、PRに努めてきた。

今後も開館25周年やふくしまディステーションキャンペーン等、機会を捉えた特別企画展の開催やスポーツ、観光、他分野との更なる連携強化により、新たなファンの獲得につなげるとともに、市公式LINE、こおりやまSNSプロモーションアンバサダー等を活用した効果的なPRを行うなど、施設の魅力向上及び情報発信について戦略的に取り組んでいく。



ビックアイは開業25周年

安積永盛駅周辺の整備について

問 安積永盛駅橋上化・バリアフリー化の早期実現への見解は。

答 安積永盛駅は安積地区の拠点のみならず、こおりやま広域圏にとっても重要な役割を担う交通施設であると認識しており、バリアフリー化はもとより交通結節点の機能強化並びに利便性の高い交通ネットワークの形成実現を目指す考えである。今回の基本調査は、安積永盛駅及び東西自由通路の一体的な整備検討に先立ち、必要となる「測量や支障物等の現地調査」のほか、「既存設備の改修や撤去計画」、「橋上駅を含む新たな施設の形式比較」、「概算工事費の算出」等について、JR東日本東北本部と連携し、2ヶ年かけて調査を進めていく予定。

志翔会レポート

「産むこと」を支える郡山へ

令和8年度予算に見る、切れ目ない支援の意味

令和8年度の郡山市当初予算を読み解くと、ある言葉が繰り返し登場します。「切れ目のない支援」です。しかし実際のところ、その「切れ目」は今もなお存在しているように感じられます。妊娠がわかった瞬間から、産後の孤立、育児の疲弊、そして就学まで——その長い道のりのどこかで、行政の手が届かなくなる瞬間が訪れます。今回の予算案は、その「切れ目」を一つひとつ埋めようとする意志の表れと、受け止められます。

妊産婦を守る、五億円の伴走

まず注目したいのが、生殖補助医療に係る交通費支援(404万円)です。不妊治療が保険適用となった今も、専門医療機関への通院負担は決して小さくありません。治療の辛さに移動の疲労と費用が重なる現実を、この補助金は静かに受け止めています。「あなたの努力に、郡山市は寄り添います」という意思表示です。

妊婦健康診査(最大17回、2億6,350万円)、妊娠期の給付金の計10万円の支給、(2億59万

円)、産婦ケア・育児サポート事業(3,656万円)を合わせれば、妊産婦への直接支援だけで5億円を超えます。これは「産むことを選んだ人が、孤立しないための支え」であり、お金で子どもを増やそうという発想とは本質的に異なります。

今回の目玉——5歳児健診への挑戦

本予算でとりわけ注目したいのが、「5歳児健診」の体制整備(137万円)です。金額こそ小さいですが、その射程は大きいです。

なぜ「5歳」なのか。子どもの発達の凸凹は、3～4歳では「個人差の範囲」として見過ごされやすい特性が、5歳になると集団生活の中でより明確に浮かび上がってきます。言葉のやり取りのずれ、集団へのなじみにくさ、こだわりの強さ——こうした特性を持つ子どもたちが、十分な支援を受けないまま小学校の門をくぐってきたケースが、これまでにいかに多かったことでしょう。実施方法は二段階方式が採用されます。アンケートで子どもの様子を確認し、必要な場合に医師健診へつなぐ設計で、受けること自体のハードルを下げながら支援の必要な子どもを確実に見つけ出します。そして健診後には、就学まで継続して相談できる場と、保健・医療・保育園・幼稚園の関係機関連携が整備されます。この「健診後」こそが最も重要です。5歳児

健診の真の意義は「異常の早期発見」ではなく、「その子に必要な支援を就学前に届けること」にあります。「診断」ではなく「伴走」のための健診——この視点を、現場の実施においてもぜひ大切にしてほしいと思っています。

「選ばれるまち」は、産める・育てられるまちから

人が「このまちで産もう」「このまちで育てよう」と思えるかどうか——それが「選ばれるまち」の核心だと考えています。数字を施策へ、施策を体験へ、体験を「このまちでよかった」という実感へと変えていくこと。それが議員の責務であり、志翔会の役割です。産む決意をしたすべての人が安心して歩んでいけるよう、議会と地域の両面から発信を続けてまいります。

妊産・出産、健やかな育ちへの支援	
妊婦・出産から育児までの切れ目ない支援を継続するとともに、安心して就学を迎えられることを目的とする5歳児健診の開始に向けた体制整備を行います。	5億606万円
【(1) 5歳児健診に向けた体制整備】 137万円	妊産から産後の継続的支援 5億489万円
(1) 5歳児健診とは 産後に成長・発達しているか、困っていることがないかを確認し、小学校入学前に安心して過ごせるよう準備する必要がある5歳児健診	(1) 妊産支援カプセル 生殖補助医療に係る交通費の支給 404万円
(2) 妊産費 年中児(18歳未満)に5歳になる方から	(2) 安心して出産・育児を認めるために 最大17回の健康診査事業 2億6,350万円
(3) 実施方法 ①アンケートで子どもの様子を確認する ②状況に応じた必要な場合、健診を行う	(3) 妊産・出産の経済的負担の軽減 妊娠期に計10万円の支給 2億59万円
(4) 健診後の支援体制 ①就学に向けて継続的に相談できる場の提供 ②保健・医療、保育園、幼稚園等関係機関との連携	(4) 育児期の負担を軽減するために 産婦の心身のケア・育児サポート 3,656万円
(5) ステップメール(予定)	



安積永盛駅舎

少年湖畔の村の利活用について

問 市が主体的に継続的な利活用を図るべきと考えるが、見解は。

伊藤 典夫



答 築35年で継続利用は可能であることから、「廃止・譲渡を検討」と評価しているが、今後、地域の皆様や利用される方々との対話を通じて、地域の課題や、求められる機能について把握し、行政と民間の役割分担も含め、湖南七浜滞在環境等上質化整備事業とも連携を図り、柔軟な利活用法を検討していく。



再整備で町の活性化に期待される少年湖畔の村

有害鳥獣による農作物被害の対策について

問 有害鳥獣被害が深刻化しているが、被害と今後の対策と捕獲者への処遇は。

答 令和6年度の被害状況は、湖南町（ニホンジカ・イノシシ類）244万円、中田町（ハクビシン類）85万円、熱海町（イノシシ類）36万円となっている。有害鳥獣の捕獲については、2月末時点でイノシシ369頭、ニホンジカ168頭、ツキノワグマ152頭を捕獲しており、令和8年度は捕獲用のわなを増やし対策強化する。また、電気柵整備に対しては総延長62km予算額2,824万円を計上。一方で捕獲従事者の高齢化・後継者不足が顕著化し、負担が増加していることから、令和8年度から1頭当たりの捕獲単価を、ツキノワグマ1万8千円から2万8千円へ、イノシシ及びニホンジカ1万8千円から2万円へ、アライグマ・アメリカミンクで5千円から5千5百円へ、ハクビシン類で4千円から4千5百円へと引き上げ、捕獲者の育成と確保に取り組んでいく。



ツキノワグマの出没に注意を促すフライヤー

タイセークリーン東部森林公園について

問 タイセークリーン東部森林公園の利活用を含めた今後の在り方について、見解は。

塩田 義智



答 桜などの花木鑑賞や森林浴、散策などで自然と触れ合えるタイセークリーン東部森林公園では、自然観察会や林業里山体験などの多彩なイベントを開催しており、今後は、民間事業

者によるイベント開催やキッチンカーなどでの出店ができるように努め、また、森林の機能や自然環境の大切さを学ぶ機会の提供に努めていく。



郡山市田村町東部に位置し、農業用溜池、金沢調整池に隣接するタイセークリーン東部森林公園

農業に悪影響を及ぼす特定外来生物について

問 治水や米の収穫に影響を及ぼす危険な侵略的外来植物「ナガエツルノゲイトウ」の、本市における現状と発見した場合の対応は。

答 ナガエツルノゲイトウは、南米原産の多年草であり、生きたままでの運搬や移動、栽培などが禁止されている。茎の再生力が極めて強く、数センチの破片からでも根が発生・繁殖し、水に流れ拡散するという特徴がある。現時点で本市では、確認されていないが、ナガエツルノゲイトウを確認した場合には、県に情報提供を行い、指導を仰ぎ、適切な措置を講じていく。



ナガエツルノゲイトウとその特徴

「ごみ最多の郡山」からの脱却へ

令和8年度予算に見る、パラダイムシフトへの挑戦

郡山市の一人一日当たりのごみ排出量は、全国の中核市62市の中で最下位です。「選ばれるまち郡山」を掲げるこのまちが、ごみの多さでも「選ばれてしまっている」——この現実を、私たちは正面から受け止めなければなりません。

令和8年度予算では、「みんなで目指す『郡山ごみ減量20%』の展開」が重点施策に位置づけられました。総額626万円、6つの新規事業を「市民と事業者、行政が一丸となったパッケージ」として展開します。

3Rから5Rへ。発想の転換

郡山市は令和6年度に3R推進課を5R推進課と資源循環課に再編し、Refuse(断る)・Reduce(減らす)・Reuse(再利用)・Repair(修理)・Recycle(再生利用)の5段階で取り組む体制に移行しました。注目すべきは冒頭の「Refuse(断る)」です。「レジ袋等をもらわない・買わない」という選択をごみ対策の入口に据えたことは、ごみを「どう処理するか」から「そもそも出さない暮らしへ」という発想の転換を意味します。これこそがパラダイムシフトの核心です。

6つの新規事業が動き出す

最大の予算規模を持つのが除草ごみ減量事業(398万円)です。クリーンセンターに持ち込まれる草木を焼却前に乾燥させることで、重量を約56パーセント削減します。見落とされがちな草木ごみに対して、一手間加えるだけで半分以上の減量を実現できるという実証結果は、非常に説得力があります。

雑紙分別・保存袋配布事業(97万円)では、空き箱や包装紙など資源として回収できるのに捨てられてきた「雑紙」を分けるための袋を小学校のごみ減量教室等で配布します。子どもへの啓発が家庭全体の行動変容につながるという視点も大切です。

廃食用油回収事業(77万円)では、家庭の廃食用油を小売店舗の回収ボックスで集め、航空燃料として再利用します。「てんぷら油が飛行機の燃料になる」——このわかりやすいストーリーは、市民の参加意欲を高める力を持っています。

啓発系ではごみ集積所掲示物配布(25万円)と飲食店への「3010運動」ポップ配布(25万円)、事業者支援では廃棄物減量計画書作成研修会(4万円)が新たに動き出します。市内約200施設の事業者を計画書提出が必要な対象とする

中、使いこなせるよう伴走する姿勢は誠実なアプローチといえます。

まちへの誇りをごみ減量から

ごみが多いということは、必要以上のものを消費しているということです。「ごみを減らす」行動は、自分の暮らしを見直す行為でもあります。「選ばれるまち」への誇りと、「中核市ごみ最多」という現実、同居できません。行政が仕組みを整え、事業者が責任を果たし、市民一人ひとりが5Rを実践する——そのすべてが揃ったとき、はじめてパラダイムシフトは現実のものとなります。



令和8年度当初予算ピックアップ

I こども・教育

予算額 51億8,368万円

■ 学校施設の長寿命化と気候変動対策の推進 32億7,756万円

児童生徒の安全・安心、学校施設の老朽化対策や気候変動による自然災害に強い学校づくりを実現するため、小中学校の長寿命化改修を実施します。(一部、令和7年度3月補正予算で前倒し)



■ 「学都こおりやま」の実現に向けた子育て世帯支援の充実と施設環境の整備 19億1,228万円

子育て世帯の経済的負担軽減を目的に給食費の全額公費負担を継続し、さらに奨学資金の給与月額を増額します。また、中学校給食センター新設に係る進入路整備に着手します。



中学校給食センター予定地

II 産業・仕事

予算額 42億8,796万円

■ 新たな産業用地整備に向けた適地調査を実施 1,496万円

更なる産業集積を目指し、企業の受け皿となる新たな産業用地の適地や開発手法等の検討を行います。

■ 本市農産物の魅力発信と販売促進 2,247万円

本市農産物の魅力発信と販売を促進し、食料自給率向上と「稼ぐ農業」を目指します。

III 交流・にぎわい・文化

予算額 7億4,398万円

■ ふくしまデスティネーションキャンペーン(DC)を契機とした観光誘客推進 3,654万円

ふくしまDC期間に合わせ、本市への更なる観光誘客を図るための事業を推進し、地域経済の活性化、そして「選ばれるまち」をめざします。

■ けんしん郡山文化センターの照明機器更新と今後の整備検討 7億2,144万円

けんしん郡山文化センターの機能維持のため、舞台照明調光機器等の修繕を行います。また、より魅力的な施設を目指すため、効果的な

大規模改修か建替などの可能性を含めた検討を行う、庁内検討チームを設置します。



けんしん郡山文化センター

IV 健康・福祉・医療

予算額 50億1,943万円

■ 高齢者の健康維持・自立支援施策の充実 3億6,866万円

健康長寿社会の実現に向け、健康維持・自立支援施策の充実を図り、高齢者の健康づくりや社会参加を促します。

【新】難聴者への補聴器購入助成事業 602万円

加齢等による聴力機能の低下で、日常生活やコミュニケーションに不便を感じている高齢者が、補聴器を購入する際の費用の一部を助成します。

対象	下の全ての要件を満たす方
対象	65歳以上の市民 両耳の聴力が40dB以上の方で 耳鼻科の医師が補聴器の装着を必要と認める方 (聴覚障害の身体障害者手帳交付の対象ではない方) 市民税非課税世帯の方
助成額	補聴器本体購入費用の2分の1 (助成の上限額：30,000円)

【拡】高齢者健康長寿サポート事業 3億6,264万円

75歳以上の助成額を2,000円分増額し、10,000円分の助成とします。

対象年齢	助成額(枚数)/年間
70~74歳	5,000円分(500円券を10枚)
75歳以上	10,000円分(500円券を20枚)

サポート券で利用できるサービス

- ◆はり・きゅう・マッサージ等
- ◆温泉・プール
- ◆コンサート等公演
- ◆健康づくり事業
- ◆バス・タクシー(75歳以上)



V 防災・環境・社会基盤

予算額 129億2,411万円

■ 駅前広場施設を一体的に整備 1億5,373万円

交通結節点の機能強化を図り、すべての人が安心して円滑に移動できるまち「郡山型コンパクト&ネットワーク都市構造」の実現に向けた交通の「リ・デザイン」を推進します。



JR郡山駅

■ 安積永盛駅周辺施設のバリアフリー化に向けた基本調査の実施 5,924万円

JR東日本と連携し、「安積永盛駅」「東西自由通路」等の一体的バリアフリー化に必要な測量等の調査、施設形式の比較検討など基本調査を実施します。

VI 市民協働・行財政

予算額 18億6,526万円

■ シティプロモーションによるふるさと納税への更なる推進 1億2,166万円

市の魅力発信と地域活性化のため、シティプロモーションと一体的にPRを行い、ふるさと納税(こおりやま応援寄附金)事業の更なる推進に取り組みます。

編集後記

東日本大震災から15年、15年前の3月11日は、公立中学校の卒業式でした。その年に生まれた子どもたちは15歳となり、3月13日に中学校を卒業しました。この「卒業」という重なりは、偶然ではありません。それは、街の再生と新しい命の成長が共鳴し合った、希望の歩みです。これから先も、志翔会は「未来を奏で、選ばれるまち郡山」を目指し一致団結し歩んで参ります。(伊藤 典夫)